

学校において予防すべき感染症について

学校という集団生活の場においては、感染症のまん延防止に努めなければなりません。そのため、下記の「学校において予防すべき感染症」にかかった場合、出席停止処置をとります。欠席扱いにはなりませんので、必ず学校へ連絡し、ゆっくり休ませてあげてください。



第1種 … 完全に治癒するまで出席停止とする。

エボラ出血熱 ・ クリミア・コンゴ出血熱 ・ 南米出血熱 ・ ベスト・マールブルグ病
 ラッサ熱 ・ 痘瘡 ・ 急性灰白髄炎（ポリオ） ・ ジフテリア ・ 重症急性呼吸器症候群（SARS）
 鳥インフルエンザ（H5N1型）



第2種 … 飛沫感染(患者が咳やくしゃみ等をすることにより、ウイルス及び細菌がとびちり、呼吸と共に体内に侵入して感染すること)をする感染症で児童生徒などによく起こる感染症。学校において流行を広げる可能性が高いもの。

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	感染期間	好発季節
インフルエンザ	発熱した後 5 日、かつ解熱した後 2 日を経過するまで	悪寒、頭痛、高熱（39～40℃） 腰痛、からだのだるい、鼻づまり、くしゃみ、たん	1～4 日 （平均 2 日）	発熱 1 日前～3 日目をピークとして 7 日目ころまで	冬
百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで	しつこい咳。 発病後 1 週間くらいから特徴的な咳がでる。（コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音をたてて息を吸う）	7～10 日	咳が出現してから 4 週目ころまで	春～夏
麻疹 （はしか）	解熱したあと 3 日経過するまで	発熱、咳、鼻水、めやに、結膜充血、頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発病後 4 日より皮膚に発疹	8～12 日	発疹のでる 1～2 日前から、でた後 4 日目ころまで	年間を通じて発生
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が始まった後、5 日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで	37～38℃の発熱。 まず片側、ついで両側のあごの後ろが大きくはれて痛む。 食欲不振・えん下困難	1～2 週	耳下腺腫脹の 1～2 日前から腫脹 5 日ころまで	春～夏
風疹 （3 日はしか）	発疹が消失するまで	ピンク色の発疹、耳のうしろ、首、わきの下などが腫れる。咳や結膜が充血する。軽度の発熱。	16～18 日	発疹の出る 7 日前からでた後の 14 日間	春に多い
水痘 （水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで	水ぼうそうのある発疹がからだ中に次々とでる。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく。	14～16 日	発疹の出る 1～2 前からすべての発疹がかさぶたになるまで	冬～春
咽頭結膜熱 （プール熱）	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後 2 日を経過するまで	高熱（39～40℃）、頭痛、のどの痛み、結膜炎、くびのリンパ節の腫れ	2～14 日	発病後 2～3 週	夏～秋
結核	病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで	初期は自覚症状なし。X 線で発見されることが多い。 疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩こり、咳、たん。	2 年以内	喀痰の検査で陽性の間	なし
髄膜炎菌性髄膜炎		発熱、頭痛、悪心、嘔吐、けいれん、意識障害、出血斑。	2～4 日		なし
新型コロナウイルス感染症	発症したあと 5 日を経過し、かつ、症状が軽減し症状が軽快した後 1 日を経過するまで	発熱・鼻汁・喉の痛み・せき・倦怠感・息苦しさといったかぜやインフルエンザに似た症状や、嗅覚異常・味覚異常、下痢。	2～7 日	発症 2 日前から発症後 7～10 日間は感染性のウイルスを排出。特に発症後 5 日間は他人に感染させるリスクが高いことに注意	

第3種 …… 学校において流行を広げる可能性があるもの。

病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止とする。

コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎
 その他の感染症（流行を防ぐため、必要に応じて学校長が校医の意見を聞き、措置ができる疾患）